

「モシ引張つたら、定宿があると云ふたらえゝのや」
 「へい、貴方さん方三人さん、お泊りや御座りまへんか」
 「私等は定宿があるねん」
 「ア、左様か、太きに失禮」
 「オイ清やん、定宿があると云ふたら大きに失禮と云ふて、おじぎをしよつたで」
 「へエ、貴方さんお泊りや御座りませんか」
 「定宿があるで」
 「大きに失禮を」
 「甚い面白いな、オウ定宿や、定宿はいりまへんか、定宿がまかつた、定宿の仕舞もんや」
 「コレ、定宿を賣る奴があるかい」
 「向ふの下女に一遍おじぎさしたろ、一寸姐はん、私定宿があるで」
 「そうやから私は何も申してまへんがな」
 「ア、左様か、大きに失禮を」

「喜い公、お前がおじぎしてるがな」
 「一寸貴方さん方、お泊りやおまへんか」
 「私定宿があるねん」
 「先刻から聞いてますと、定宿々と云ふてはるが、定宿の名前は」
 「定宿やないかい」
 「イ、エ、皆何屋何兵衛と云ふ名前がおますが」
 「定宿屋の定宿兵衛や」
 「そんな家はあれしまへんがな」
 「そんなら足がいたみや」
 「マア粹な兄さん、伊丹屋は手前だす、何卒お這入りを」
 「ア、左様か……オイ清やん来てんか、此所の家が伊丹屋やと」
 「阿呆やな、しようもない事を云ふよつてにや、どうも仕方がない……お前所で泊るで」
 「有難うさんで……コレ三人さんお泊りや、お足洗をお

取り申しや……二階の八番へお案内申し」
 「へい、何うぞ此方へ……」
 「二階の座敷へ通りますと、宿屋の番頭さん」
 「へい、お早いお泊きさんで、只今お風呂が空いて居りますでどうぞお入浴を」
 「ア、そうか、オイ風呂が空いてると、交るくに入浴らう」
 「そんなら私が先行つて來るで」
 「御案内申します」
 「放つていて、一人で行くは」
 「貴方さん、お風呂御存じで御座りますか」
 「解つてる、此處の家は何處に風呂があつて、何處に雪隠があつて、何處が漬物納家や知つてる、案内せいでもえゝ」
 「ア、左様か」
 「俺行つて來るで……風呂場は何處ぢやいなア、風呂場

は此處かいな……」
 「お客さん、其處は漬物納家でおます」
 「知つてる」
 「漬物納家へ何仕におこしだす」
 「此處の家は漬物を、どう云ふ具合漬けてる見に來たんや、其方へ行つて……風呂場は此處かいなア」
 「お客さん、其處は便所だす」
 「知つてるがな、ついでなと云ふのに」
 「貴方、お便所へ何仕におこしだす」
 「お前妙な事を尋ねるな、お便所へ何仕に、何仕にてお便所仕に來たんや」
 「貴方はん裸でおますせ」
 「裸で便所へ來られまへんか」
 「來られん事はおまへんが、風呂場は此方でおますで」
 「知つてる、ついでなと云ふのに、其方へ行き……風呂場は此處かいなア」